

滝川の

鍮が淵の主

平成元年九月五日号

原田の永明寺には不思議な話が幾つか伝わっています。今回は「永明禅寺史」から鍮が淵の主の話を紹介します。

ふちに飛び込んだ小坊主

永明寺の西側、滝川に鍮が淵というところがあります。ここは、昔、大きなふちになっていました。

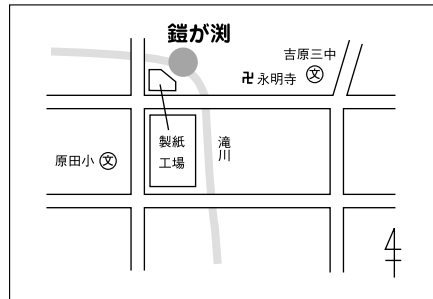
昔々のことです。和尚さんが小坊主に「鍮が淵に木が覆いかぶさっている。道や墓地が

暗くなるので枝を切りなさい」と命じました。

翌日、小坊主は木によじ登り山刀で枝を切っていました。山刀をふちに落とし、怒った和尚さんは、

「潜って拾ってきなさい」と言いました。

鍮が淵はとても深く、氷のように冷たい水が渦を巻いています。その上、このふちには主が住んでいると言われているので、小坊主はとても潜る気にはなれません。困っていると、何と水面に山刀が浮いているではありませんか。小坊主は慌ててふちに飛び込みまし





機^{はた}を織っていた主

ところが、山刀は幻で、ふちの底には立派な御殿があり、奥で美しい女の人が機を織つ

ていました。

小坊主が近づくと「おまえは、山刀を拾っていかないとしかられるので返してやるが、私のことはだれにもしゃべるでないぞ。私はこのふちの主だが、おまえの山刀で織物がこんなに切れてしまった。今度、落としたら許さないぞ」と言い、山刀を返してくれました。

小坊主はお寺に帰ると、和尚さんに「三年の間、おまえはどこへ行っていた」としかられました。

主がいるから近寄るな

原田の大石隆男さんは、「子どものころ、主がいるから近寄るなど言われたよ。でも、みんなで遊びに行き、高さ五メートルぐらいのふちから飛び込んだね。武士が鎧を隠したところという説もあるよ」と語ってくれました。

語ってくれた方

大石隆男さん